

学校教育目標 未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成

～ やさしい子：やさしいっけい かしい子：かっけい たくましい子：たくまっけい ～



和土小だより

〒339-0033 さいたま市岩槻区黒谷1353番地 TEL048-798-0208 / FAX048-798-8730

学校Webページ：<https://wado-esaitama-city.ed.jp/> Eメール：wado-e@saitama-city.ed.jp

さいたま市立和土小学校

令和6年2月29日(木)

3月号 発行者 池田 誠

児童数 159名

ポジティブなものの考え方

校長 池田 誠

例年がない春の暖かさを感じた2月。学区内で見られる梅の花は、満開を迎えています。可愛らしい花が、私たちの目を楽しませてくれています。

一昨年「ブラボー」というかけ声で、一躍時の人となった、サッカー男子元日本代表で、FC東京所属長友 佑都 選手は、『メンタルモンスター』になる。』という著書の中で、「メンタル：心」を前向きにする大切さについて次のように書いていました。「辛くても、きつくても、苦境にあっても、ポジティブ※1な姿勢を貫く。」「ポジティブにしていると、思わぬ力を、ここぞという場面で発揮することができる。」「どんな人も、誰でも『光る』ものを持っている。あとは、それを磨き、光らせるまで頑張れるか、ひたむきになれるか、より大きな光になる努力を続けられるか。そこに、暗い未来を明るいものに変えていける鍵があると思っている。」「自分でポジティブに考え、自分を上げていく。」



【可愛らしい梅の花】

現在、校長室では、昨年同様、来年度学校のリーダーとなる4・5年生と卒業する6年生の全員と対話を行っています。業間休みと昼休みに学年ごとに4～5名ずつ来室してもらい、進級・卒業への気持ちや学級・学校の様子、夢や希望などについて聞かせてもらっています。一方で、進級・卒業を迎え不安になり、いろいろなことに悩むこともあるようです。そのような話になったときには、長友選手の言葉を引用し、ポジティブな考えをもち、自分でダメだなと思わず、目標を明確に立て、それに向かって努力しようとする、自分ではできると何度も思い込むこと、自分の脳に言い聞かせてみることによってよい方向につながるのではないかと話しています。

懇談会時に、「よりよい和土小づくりのアンケート」の児童と保護者の皆様の集計結果をお示しいたしました。この集計結果と本校の教職員による評価をもとに、本校の教育活動の振り返りを進めました。そして、次年度の主な方策等※2を以下のように考え、学校経営の一層の充実と改善に努め、新たな成長につなげていきます。

1 学力向上に関すること ○一層児童理解に努め、児童一人ひとりに応じた指導と支援の推進 ○児童と教師がともに学び合う授業の推進 など	2 安心・安全に関すること ○児童とのコミュニケーション(会話やふれあい等)の一層の推進 ○自立と挑戦を促す指導の推進 など
3 開かれた学校づくりに関すること ○新しい小・中一貫教育の推進 ○地域の方々や施設との連携の推進 など	4 教職員の資質向上に関すること ○OSSSPの理解と活用の推進 ○職員同士の学び合いの推進 など

また、学級では、成長したことや頑張ってきたことなどを児童と担任で振り返りをしたので、聞いてみました。

1年1組	当番活動を協力して行うことができました。また、給食をおいしく食べることができました。
2年1組	みんなともっと仲良くなれました。なわとびや九力など、色々なことにチャレンジして、できるようになりました。
3年1組	苦手なことにチャレンジした1年間でした。明るく元気で「たいよう」のような3年生でした。
4年1組	元気いっぱい。やさしさいっぱい。長縄跳びや跳び箱運動をたくさんがんばりました。
5年1組	自分たちで考えて行動できるようになりました。多くの人と協力して活動することができた1年間でした。
6年1組	「やればできる」という学級目標のもと、いろいろなことに挑戦してきたので、ダイヤのように輝く6年生になれたように思いました。
さくら1組	初めてのことに挑戦し、粘り強く取り組みました。できるようになったことが増え、大きく成長しました。
さくら2組	漢字を使うことや長さを計ることなど初めての学習を頑張りました。明るく元気に取り組みました。

結びに、開校150周年の今年度も、保護者・地域の皆様の温かなご支援とご協力により、安全かつ充実した教育活動を進めることができました。心より感謝申し上げます。今後もポジティブな考え方を大切にし、児童の健やかな成長のため尽力してまいります。

※1「ポジティブ」とは、「前向きに」「積極的に」「プラス思考」「自信がある」「よい方考える」という意味で使われています。※2 詳細は、今後学校Webページにて公表いたします。

☆☆ 和土小の150年、そして未来へ ☆☆

【偉大な先輩：遊馬 正(あそまただし) 画伯 1923年(大正12年)和土村大字笹久保 生】

○1936年(昭和11年)和土小学校尋常科卒業

○1941年(昭和16年)埼玉県立粕壁中学校卒業

○1943年(昭和18年)埼玉師範学校卒業(戦時中のため繰り上げ卒業)

卒業後、北足立郡片柳小訓導として勤務。その後戦争に出陣。終戦後、片柳小訓導に復帰。

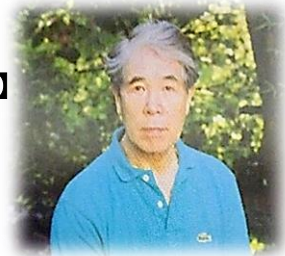
○1947年(昭和22年)埼玉県岩槻中学校教諭として勤務

勤務しながら、絵を学び続け、日展等数々の展覧会で入選。フランスやアメリカに留学。教職を退職後、再渡米し、絵を学ぶ。ニューヨークを拠点に油絵を描き続け、数々の賞を受賞。

○1996年(平成8年)帰国。その後、県内の百貨店等で個展を開催。



【画伯】



【画集】

本校への寄贈作品

「Indian Summer」(来賓・職員玄関正面)

「金色のリフレクション」(体育館ミーティングルーム内)